

日 時	令和4年8月5日 午後3時30分から4時30分まで
場 所	長久手市役所会議室 H 及びオンライン併用
出席者	16名中14名出席 会長 岩淵準 副会長 伊藤雅一 委員 石橋健一 委員 長谷川明子 委員 増田理子 委員 荒川俊史 委員 鶴見紘二 委員 森 広幸 委員 鬼頭和宏 委員 高村光一 委員 田代はるみ 委員 大須賀詩乃 委員 村越生 委員 森山輝久 市（事務局） くらし文化部長 門前健 くらし文化部次長 嵯峨剛 環境課長 富田俊晴 環境課長補佐 森健一 同課環境係長 山田菜美 同課ごみ減量推進係長 大谷悠 同課環境係主任 前澤実希
欠席者	委員 廣田賢一 委員 山本崇宏
議 事	1 令和3年度事業報告及び令和4年度事業進捗報告について 2 第4次長久手市環境基本計画の推進（「見える化」の深掘り）について
公開・非公開	公開
傍聴者人数	なし

議事要旨

議事 1 令和 3 年度事業報告及び令和 4 年度事業進捗報告について	
事務局	資料 2 に基づき説明
委員	ごみの減量の啓発について、自分たちが出したごみの焼却後のリアルな埋立地の様子まで教えることで、環境への負荷について理解が及ぶきっかけになると思う。
事務局	小中学校へのアウトリーチの話の中で、本市のごみ処理施設を出た後の焼却灰がどこに持ち込まれて、埋め立てられるか写真付きで伝えている。ごみを減らすことで、少しでも埋立地の受け入れられる期間を長くすることができることを知ってもらおうとしている。大事な話なので、引き続き、お知らせしていきたい。
委員	ながくて eco チャレンジについて、市民の参加状況や参加内容は、今後の家庭の意識変容・行動変容の尺度になる可能性がある。本事業の目標の年や、目標のチャレンジ件数の設定について教えてほしい。
事務局	エントリー件数は景品を 500 件用意しているため、それを上回る件数を目標としている。中長期的な目標としては、本市の財政を鑑みると、今回の規模より規模を縮小しながら継続して実施していくことを検討している。
委員	CO2 を削減するための政策を実施しているが、例えば市内の農地や森林を充実させることで CO2 を吸着・固定する等して削減する考えはあるか。
事務局	緑化に力を入れていこうとしている。緑化によって、CO2 吸収量を高め、またそれに伴ってできる木陰によって、夏の暑い時期を体感的に涼しく過ごせるように考えている。併せて、公共施設において、太陽光発電設備の設置で CO2 発生を抑えている。
委員	CO2 の固定化は技術開発が不十分だが、取り入れられる部分もあるかもしれないので、引き続き検討してほしい。
委員	あいちグリーンでんきの導入について、100%切り替えたのか。コストやメリットについて教えてほしい。
事務局	市役所が一括契約している施設は 100%切り替えをした。コストについて、従来は入札によって安価に仕入れていたため、通常よりは 3 割ほど上がった。
委員	水力発電はクリーンだが、CO2 発生がゼロではないため、他の調達手段も検討するのが良い。
議事 2 第 4 次長久手市環境基本計画の推進（「見える化」の深掘り）について	
事務局	資料 2（P.43～）に基づき説明
委員	効果測定について、市が実施する事業の住民への浸透具合について測定して、浸透していない者については、周知を改善してはどうか。例えば昨年度から実施している「電力見える化システムの設置」について、生活の中で見聞きしたり行き渡ることがなかったように思う。
事務局	浸透については、SNS を使った発信等も始めたが、未だ課題と思っている。効果の検証については、一定のところでアンケートを行って確認している。
委員	ごみ減量の見える化について、広報や自治会の回覧では広がらず効果が薄いように感じる。他のアプローチとして、例えば、市指定のごみ袋を買くと、一緒にごみ減量通信が同封されているなどすれば、より広い層にアプローチできるのではないか。

委員	<p>見える化の手段として、学区単位で実施した結果を校内に掲示することで、意識を高め、親へも伝える取り組みをしてはどうか。外来ザリガニ全種が特定外来生物に指定され、身近なアメリカザリガニも、指定に向けて動いていることもあり、自分たちで何ができるか考えることが必要である。見える化のための掲示資料については、提供するのではなく、子どもと一緒に作成するのが望ましい。都市計画マスタープランや緑の基本計画と連動して、気候対策を行うことが大切である。</p>
----	---

以上